

渚滑川水系河川整備計画（原案）
（国管理区間）

平成 21 年 6 月

北 海 道 開 発 局

標高値は、2000 年度改正の新基本水準点に基づき表示しているが、必要に応じて旧基本水準点(2000 年度改正前)に基づく表示とし、その旨明記した。

目 次

1. 河川整備計画の目標に関する事項	1
1-1 流域及び河川の概要	1
1-2 河川整備の現状と課題	6
1-2-1 治水の現状と課題	6
(1) 治水事業の沿革	6
(2) 洪水の概要	8
(3) 治水上の特徴と課題	11
1-2-2 河川の適正な利用及び河川環境の現状と課題	12
(1) 現況の流況と水利用	12
(2) 水質	15
(3) 動植物の生息・生育状況	17
(4) 河川景観	19
(5) 河川空間の利用	20
(6) 河川の適正な利用及び河川環境上の課題	21
1-3 河川整備計画の目標	22
1-3-1 河川整備の基本理念	22
1-3-2 河川整備計画の対象区間	24
1-3-3 河川整備計画の対象期間等	25
1-3-4 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	25
1-3-5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	26
1-3-6 河川環境の整備と保全に関する目標	26
(1) 河川環境の整備と保全に関する目標	26
(2) 河川空間の利用に関する目標	26
2. 河川整備の実施に関する事項	27
2-1 河川工事の目的、種類及び施行の場所	27
並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	27
2-1-1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	27
(1) 洪水を安全に流下させるための対策	27
(2) 内水被害を軽減するための対策	30
(3) 広域防災対策	31
2-1-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	32
2-1-3 河川環境の整備と保全に関する事項	32
(1) 河畔林の保全、河岸の多様化	32
(2) 河川景観の保全と形成	33
(3) 人と川とのふれあいに関する整備	34
2-2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	35
2-2-1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	35

(1) 河川の維持管理	35
(2) 危機管理体制の整備	42
(3) 災害復旧	44
2-2-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持	45
並びに河川環境の整備と保全に関する事項	45
(1) 水質の保全	45
(2) 水質事故への対応	45
(3) 渇水への対応	45
(4) 河川空間の適正な利用	45
(5) 河川美化のための体制	45
(6) 地域と一体となった河川管理	46

1. 河川整備計画の目標に関する事項

1-1 流域及び河川の概要

渚滑川は、その源を北海道のほぼ中央部にある北見山地の天塩岳(標高 1,558m)に発し、山間部の滝上町を流れ、サクルー川、立牛川等の支川を合わせ、紋別市上渚滑において平野部に出てウツツ川等の支川を合わせて、紋別市渚滑町においてオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長 84km、流域面積 1,240km² の一級河川である。

渚滑川の流域は、紋別市、滝上町の 1 市 1 町からなり、流域の中心都市である紋別市は、流氷観光で有名であり、オホーツク地域における行政、産業、経済、文化の主要拠点の一つである。

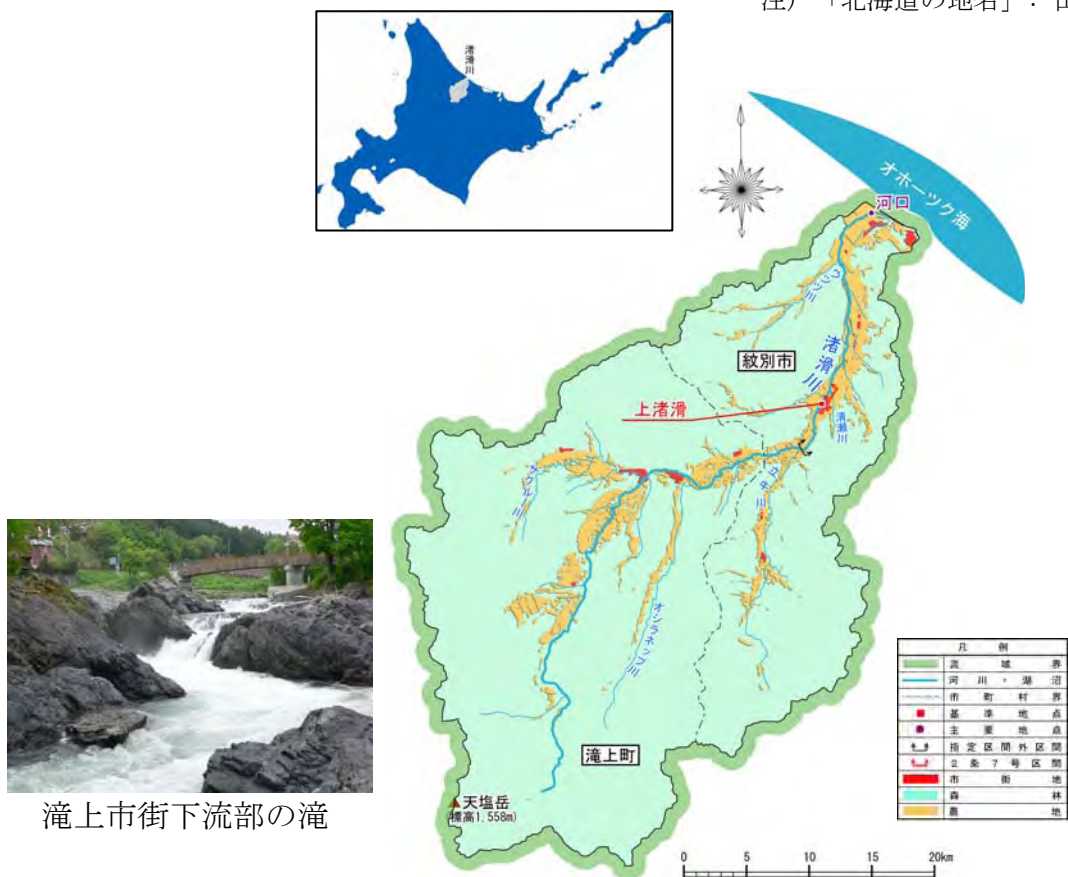
「北海道の地名^{注)}」によれば渚滑川という名は、滝上市街の下流部は滝となっており、その地形を示すアイヌ語の「ショ・コツ」(滝の・凹み)に由来している。

渚滑川の河床勾配は、源流からオシラネツ川合流点に至る上流部は 1/100 程度、オシラネツ川合流点からウツツ川合流点に至る中流部が 1/350~1/450 程度、ウツツ川から河口までの下流部では 1/850 程度となっており、全川を通じて比較的急勾配である。

流域の土地利用は、山林等が約 80%、原野・牧場等が約 12%、耕地は畑作の約 7%、宅地等の市街地が約 1%となっており、森林資源などに恵まれている。

流域の中下流部では農地として明治初期から開け酪農が盛んであり、下流紋別市はホタテやズワイガニの全国有数の産地となっている。

注) 「北海道の地名」：山田秀三著



1-1 渚滑川流域図

流域の気候は、オホーツク海側気候区に属し、梅雨や台風の影響を受けることが少ない。流域の年間降水量は、全国平均約 1700mm に対し約 800mm と降水量が少ない地域である。オホーツク海は流氷が接岸する海であり、気温は流氷接岸期の 2 月に最も低くなる。

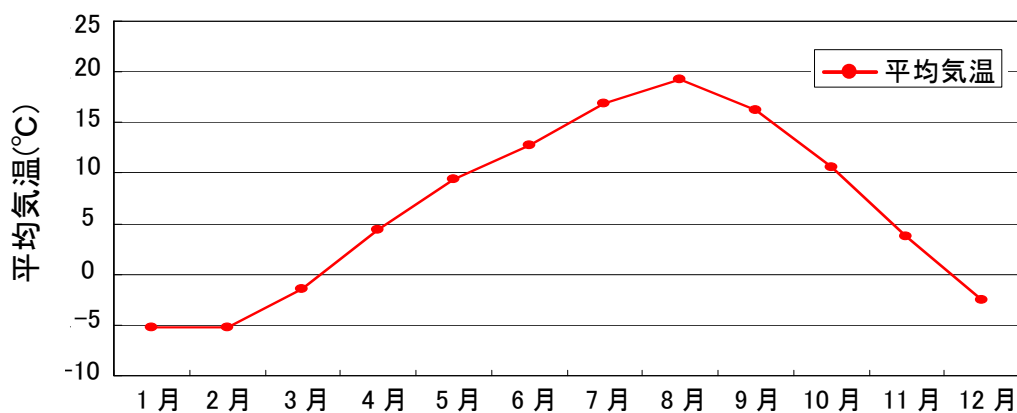


図 1-2 紋別観測所の平均気温 (H1 年～H20 年)

出典：気象庁アメダス

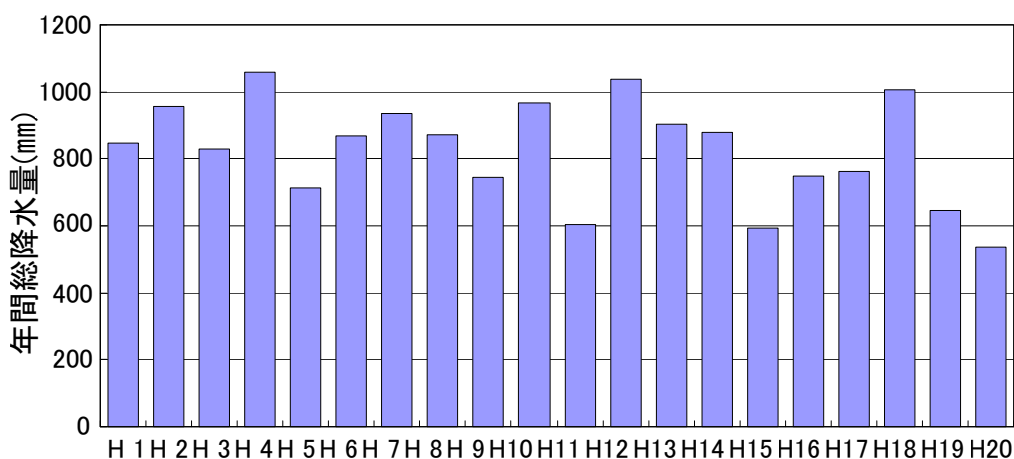
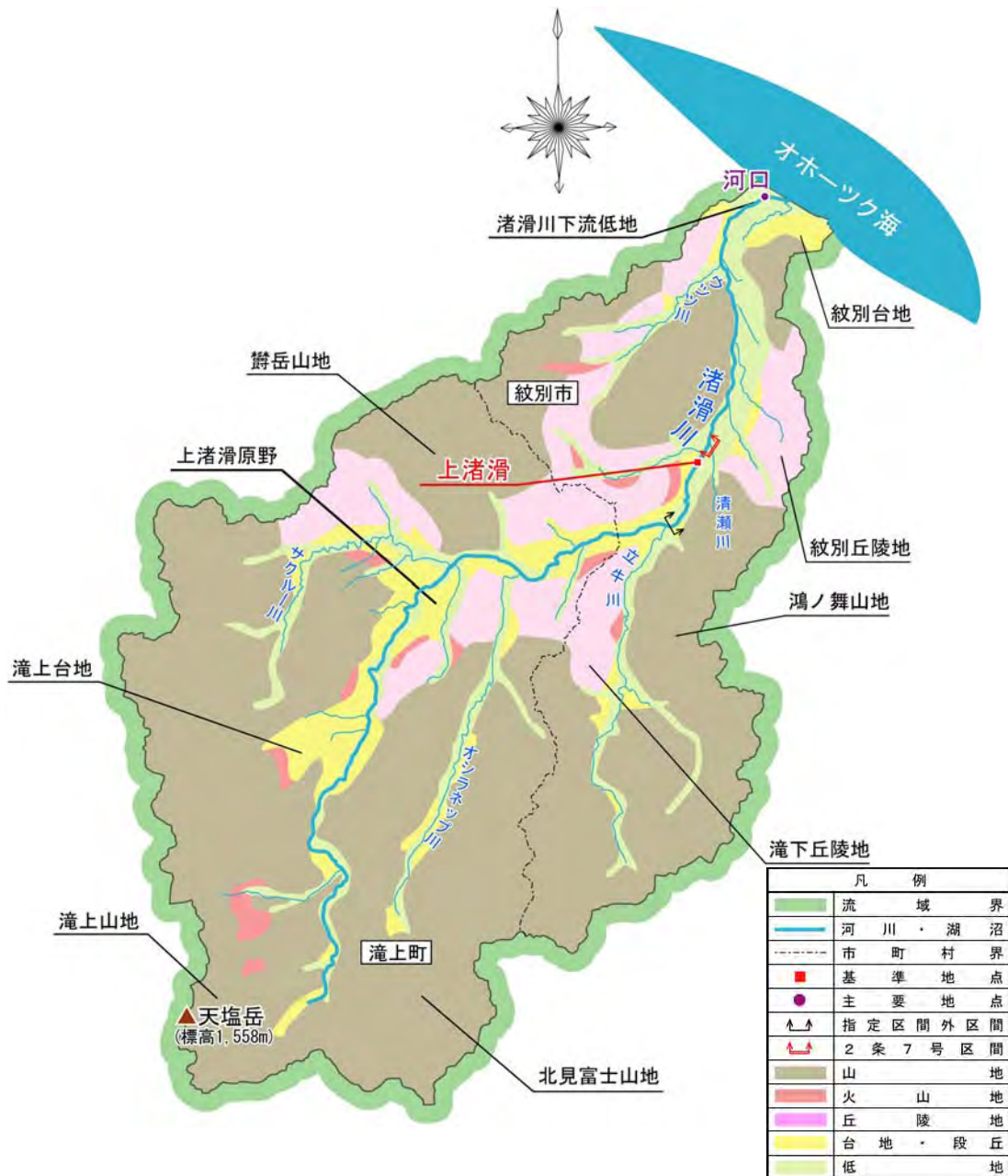


図 1-3 紋別観測所 年間降水量の経年変化 (H1 年～H20 年)

出典：気象庁アメダス

流域の地形の大部分は、山地、丘陵地であり、低地は山地の谷底平野と最下流部に分布するのみである。上流は、天塩岳(1,558m)などの急峻な大起伏山地を中心に標高 400~1,000m の小起伏山地がその外縁に分布している。渚滑川をはさんで^{うっだけ}鬱岳山地の南部外縁と、^{きたみふじ}北見富士山地の北縁とに発達した標高 250~400m の大起伏丘陵地となり、上渚滑原野と呼ばれる低位段丘群が形成されている。渚滑川の上流から支流のサクルー川との合流付近一帯にかけて盆地上の台地地形が卓越する。低地については、上渚滑市街より下流の扇状地性低地と河口付近の三角州性低地が分布している。



(出典：土地分類図(北海道VI 網走支庁)
財団法人日本地図センター発行)

図 1-4 地形図

流域の地質は、最上流山地および流域の東側では、火山性岩石の安山岩質岩石が分布している。上流部の大半の山地は、先白亜系日高累層群の半固結—固結堆積物の粘性岩により構成される。中下流部の狭長な台地から平野部にかけては、河岸段丘を構成する砂礫層などの堆積物から成る。海岸平野には、礫・砂・粘土の他、一部で泥炭も見られる。



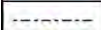





(出典：土地分類図(北海道VI 網走支庁)
財団法人日本地図センター発行)

図 1-5 地質図

流域の主要な交通網は、重要港湾である紋別港、第三種空港としてオホーツク紋別空港が存在し、東京との定期運行により、旅客及び物資の輸送がされている。

道路網は、網走市から稚内市に至る国道 238 号、紋別市から渚滑川に沿って滝上町を通り上川支庁の上川町や帯広市へ通じる国道 273 号があり、交通の要衝となっている。

凡 例	
	流 域 界
	河 川 ・ 湖 沼
	市 町 村 界
	基 準 地 点
	主 要 地 点
	指 定 区 間 外 区 間
	2 条 7 号 区 間
	国 道

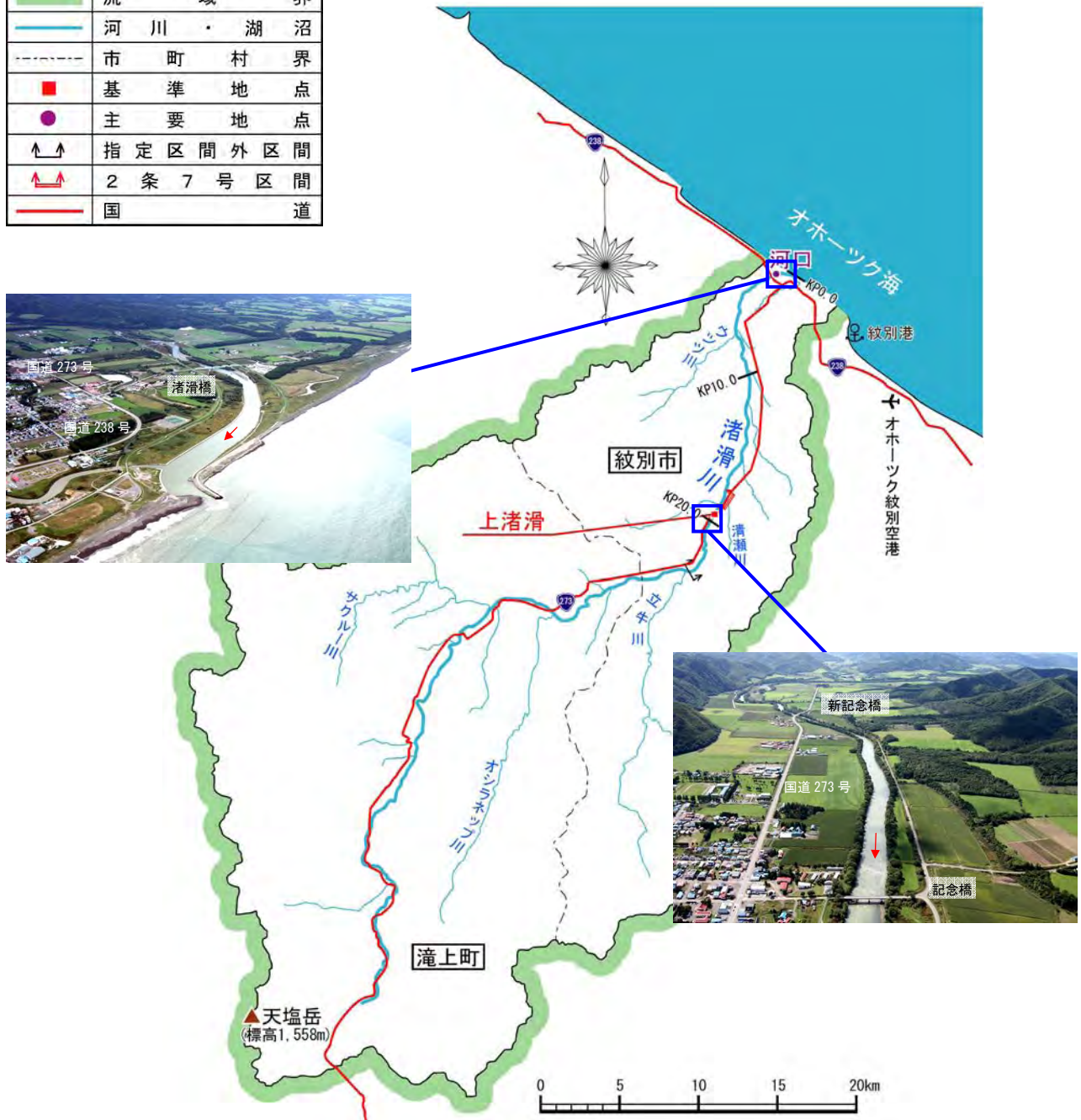


図 1-6 基幹交通施設位置図